

武田 典久 議員

(一問一答方式)

- ①国際交流
- ②観光施策
- ③農業施策



中学生海外派遣事業について

問 今年度も新型コロナウイルスの影響により国内での英語キャンプに代替されるとのことだが、派遣事業の効果は海外の地に行っこそ発揮されるものである。今後の実施はどう考えているか。

答 中学生海外派遣事業は、公益財団法人榊山教育振興会の協賛を受け、市内の中学生を海外に派遣し、異国の文化や歴史、生活習慣や国民性の違いを肌で感じることで国際社会にふさわしい人材育成を目的に平成10年度から実施しています。

令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により渡航制限等が設けられたことから、事業の中止を余儀なくされましたが、令和4年度はコロナ禍でも実施できる最善の策として、海外派遣に代わり疑似留学が体験できる国内での英語キャンプ事業を大阪で実施しました。

令和5年度においても、当初の計画の段階で海外渡航制限の解除までには至っていなかったことから、引き続き国内において英語キャンプを東京で実施することとし、現在、夏休み中の実施に向け参加者を募集し、準備を進めています。

市としても実際に海外に出向いてこそ事業の効果は最大限に発揮できると考えています。渡航制限も解除されたことから、来年度以降は従来どおり海外への派遣事業を実施し、世界で活躍できる豊かな人間性と創造性を持った人材を育成したいと考えています。

歴史的資源を活用した観光まちづくりの取組について

問 グリーン・デスティネーションズ・ストーリー・アワードの文化伝統保全部門で世界1位を受賞されたことは、快挙であり、大変喜ばしいことであるが、どういった内容の受賞なのか。また、今後

の観光戦略をどう見ているか。

答 持続可能な観光地を認証する団体が、オランダに本拠地を置く「グリーン・デスティネーションズ」で、この団体が、他の地域で参考となるような優れた取組事例として上位3地域を表彰するものがグリーン・デスティネーションズ・ストーリー・アワードであり、本市は今年3月、文化伝統保全部門において1位を受賞することができました。

今回の受賞内容は、肱南地区の古民家等の歴史的資源を官民連携によって改修し、宿泊型観光産業に活用して町並み保全を行っているという取組や雇用の創出など、地域経済の発展にも資するストーリーが評価されたものです。

今後の取組と観光戦略については、観光地域づくり法人のキタ・マネジメントにおいて、観光まちづくりの取組を体験コンテンツとして提供するサステナブルツアーや、本ツアー代金の一部をガイドの育成及び地域団体に還元する仕組みの構築、来訪者と地域コミュニティとの交流の機会創出による関係人口の増加など、観光を通じた好循環の仕組みづくりを行うこととしています。

農業DXについて

問 今後の農業を展望すると、デジタル技術を活用した効率的な営農を行いつつ、消費者ニーズに対応した価値を創造することが求められている。農業DXの重要性に鑑み、市としてどのような施策を考えているか。

答 農業DXは、ロボットやAI、IoTなどのデジタル技術を導入して農作業を省力化しつつも、品質と生産量を向上させ、安定した食料供給ができる農業を実現させるものです。

農業生産性の向上と農作業省力化による規模拡大を促すため、昨年度より個人経営の農家でも農業DXに取り組むことができるよう、市の予算でスマート農業推進モデル事業を創設しており、今年度は補助対象機器を環境制御装置など施設機器に加え、農薬や肥料を散布するドローンなど農業機械にも拡大し、その予算も増額しています。